

どんな小さな事故でも、「事故」は、「事故」  
わき見は厳禁、100%運転に集中しましょう(スマホ見ながら×)  
車間距離を十分にとろう! 追突を未然に防止しよう

#### 歩行者・自転車の交通事故防止のポイント

- 住宅街では、自転車側の一時停止に要注意
- トラック側の一時停止は、確実に2度停止、左右の確認
- 交差点の右左折時は、確認運転の励行!
  - 左折時は、左後方からの歩行者・自転車に要注意
  - 右折時は、右後方からの歩行者・自転車に要注意
- 特に自転車は、確認した時にいなくても、早いスピードで接近するので要注意
- 一時停止場所、交差点の右左折は、確認の上に確認を重ね、ゆっくりと走行してください
- 事故があったら...その場で停止、負傷者等の救護を優先!

「歩行者」・「自転車」を見かけたら...「かもしれない」運転を  
「かもしれない」で備える 交差点事故防止

◆ 労災事故防止 トラックの荷台から...「墜落・転落」、「挟まれ」防止◆

◆ 2時間ごとに、15分休憩で 守ろう! 自分の命 他人の命◆

#### ◆ 交差点・バック事故 止まらず ◆

- STOP! 交差点事故 (前方不注意と車間距離)
- STOP! バック事故 (特に、構内・駐車場・現場内)

#### 要注意 危険がひそむ 交差点

- 積み下ろし作業中の、荷台からの墜落・転落に注意しましょう
- 鋼材、資材の積み下ろし作業中の、手・指・足のはさまれ事故に注意しましょう
- ハウス、トイレの積み下ろし作業時の、脚立・屋根からの転落に注意しましょう
- 敷き鉄板の積み下ろし作業時、ユニック作業に注意しましょう

構内も停止するまで、運転中

## ～ 適性診断結果など ～

～ ドライバーや運転特性のデータと車両事故発生率との関係性を分析 ～

2019.3.29 00:10

愛知県トラック協会

大学との共同研究にて、運送事業者の車両事故の低減・未然防止を目的とした、デジタルデータや適性診断結果などドライバー自身やその運転特性と車両事故発生率との関係性について、データ分析を行いました。

## 事故発生率が高まる

- 50歳以上
- 連続走行時間が長い
- 夜の便より昼の便
- 速度オーバーを頻発

ドライバーの加齢に伴い事故発生率は高まる傾向があるとする結果が得られました。よって経験の長さや技量の習熟度とは別の、意識的な注意喚起も必要であることがうかがえます。

また、連続走行時間の長さ、夜の便よりも昼の便、速度オーバー回数の多さとの関係性が高かったため、運行管理者は、配車を組む際には各ドライバー間の偏りを極力無くし、運行データを監視する際には、連続走行時間や速度オーバー回数を、とくに厳格に管理・指導していくべきだと考えられます。

年々深刻さを増しているドライバー不足は、絶対的な人員数の不足に加え、高齢化も進んでいます。

今回の分析結果では、加齢に応じて安全運転対策も変化させる必要性があり、それと共に、新たな担い手となる若年層のドライバー人材の採用と育成が急務であることを、改めて裏付けたといえます。

加えて昨今、デジタルや適性診断などのデータは、多くの運送事業者が保有していながら、その活用は極めて限定的であるのが実態です。